

社外の方からの評価

第三者意見 「CSR報告書2013」(当社ホームページで公開)に対する意見

電気料金の値上げと経営の効率化

電気料金は、企業等について本年4月以降平均11.94%、家庭について5月以降平均6.23%の値上げがそれぞれ実施されました。各企業はこの値上げ分を企業努力によって吸収せざるを得ないのが現実ですし、地方自治体も予算のやりくりや契約の見直しによって対応する考えです。

こうした地域の状況に照らし、九電としても経営の徹底した効率化に努めていただきたいと思います。CSR報告書では、今後3年間の効率化計画(平均1,400億円規模)が示されていますが、これらが確実に実行されることを期待します。

原発の再稼働と“選ばれる企業”を目指して

トップメッセージで原子力発電所の早期の再稼働について言及している点、及び消費者によって“選ばれるしなやかで強い企業”を目指すと言明している点が注目されます。

前者に関連して、特集1『原子力発電所の安全・安心への取組み』などで詳しく説明されています。本年7月18日までに新「規制基準」(原子力規制委員会)が施行されるのを受け、九電は第一ステップとして川内原発1、2号機の審査を速やかに申請する旨の報道に接しました。地方自治体による「地域防災計画」(原子力災害編)の整備も必要ですし、とりわけ発電所から出る放射性廃棄物は果たして管理・処理できるものであるかについての疑念から、再稼働に反対・慎重の論議があることも確かです。

昨年度のCSR報告書では、原子力は「もともと危険なもの。だからこそ、安全のため、あらゆる努力をする」という認識が示されていました。この点の再認識をベースに再稼働に反対・慎重な論議に対しても情報の提供と説明を試み、真摯に対話の接点を探っていく姿勢が大事であるように思います。

後者の“選ばれるしなやかで強い企業”を目指すという宣言は九電の望ましい将来像を表していて、興味深いもの

があります。承知のように、国政レベルでは電気事業法の改正による電力システム改革、すなわち先行的な電力小売りの完全自由化、そして将来的な発送電分離の実施が俎上に載っています。今後、新電力(PPS)の供給比率は次第に高まっていくでしょう。安くて安全な電気エネルギーを選びたいという消費者の当然の願望に応えるべく、九電として2020年度には太陽光・風力の導入見通しを700万kWに再設定し、6月には平治岳地熱発電の可能性を探る地表調査を開始することなどが報じられています。

この宣言は九電の将来像を端的に語ったものですが、その具体的取組みは今後における全社挙げての課題でありますし、次年度以降のCSR報告書ではこの観点を大きな柱としてまとめ上げていく必要があるように思います。

CSR行動原則の設定

本年度のCSR行動計画は昨年度の実施状況とステークホルダーの意見を踏まえつつ策定され、項目ごとにPDCAサイクルを推進していくとする意欲が伝わってきます。まずは、この点を評価したいと思います。

こうしたPDCAサイクルの推進のためには、九電にとってCSRとは何かという点について、より明確にしておくことが必要です。例えば、CSRの取組みを具体的に展開するうえでの行動原則を策定し、全社員が共有する規範としておくことも一つの方法だと思えます。

九州国際大学 客員教授・(前)学長
厚生労働省 福岡労働局 参与

ごとう かつき
後藤 勝喜氏



第三者意見を受けて

CSR報告書に記載した内容の信頼性を高めるため、昨年に続き、九州国際大学の後藤教授に客観的な立場からの評価をお願いしました。

ご意見をいただいた「経営の効率化」や、「原子力発電所の再稼働に向けた取組み」につきましては、中期経営方針に掲げる重点的な取組みとして、しっかりと実践してまいります。

また、当社では、コンプライアンス経営の観点から「九州電力グループ行動憲章」を定めています。この憲章は、CSRの観点とほぼ重なる内容を含みますので、この憲章に基づく実践の中でPDCAをまわし、充実を図ってまいります。

これらの取組みを着実に実施し、ステークホルダーの皆さまから信頼され、選ばれる企業を目指してまいります。

九州電力株式会社
代表取締役副社長 CSR担当

ちんぜい まさなお
鎮西 正直



“伝わる”CSRダイジェストのための意見交換会

読者に“伝わる”CSRダイジェストとするために、読者の目線を取り入れることを目的とした、学生の方々と意見交換を行いました。

- 【実施時期】 2013年4月～5月
- 【参加いただいた方】 九州大学 統合新領域学府
ユーザー感性学専攻の大学院生15名
- 【ファシリテーター】 九州大学 専任講師 田北 雅裕 氏



意見交換会での主な指摘

- ◆ 見出しや図表を見ただけで、内容が理解できるように工夫してほしい
- ◆ 記載内容は全般的な話ではなく、部分的であっても、具体的な事例で説明された方が分かりやすい
- ◆ 専門用語はなるべく使わず、やむを得ない場合は、当該ページに注釈をつけてほしい
- ◆ フォントや行間にメリハリをつけた方が、単調にならなくていい
- ◆ 各ページごとにテーマカラーを決めて、同系色で統一してほしい など

今回の意見交換会を通じて

今回は、見た目の分かりやすさだけでなく、学生と九電社員が「伝えたい思い」や「伝わらない思い」を正直に交わし、深く対話できたことに大きな意味があったと思います。学生も九電社員も、その一人ひとりが、九州という同じまちに生きる「市民」です。その事実を互いに受け入れ、正直に気持ちを交わし、対話を重ねていく。そういう機会を継続し、発せられた声に互いが応じながら、次の世代へ希望を託すこと。それが今を共に生きる「市民」としてのぼくらが持つ、当然の責任だと思えます。

今後、九州電力には信頼を築く挑戦を貫いてほしい。そして、ぼくらのまちである九州の未来に、一緒に明かりを灯していきたいです。



ファシリテーター[進行役]
九州大学 統合新領域学府
ユーザー感性学専攻 専任講師
田北 雅裕 氏

Q 参加する前の九州電力に対する印象は？

- ◆ お役所的で堅いイメージ
- ◆ 閉鎖的で近寄りにくい

Q 参加した後の九州電力に対する印象は？

- ◆ 社員の顔が見えて、親しみを持てるようになった
- ◆ 話してみたら、ちゃんと話が分かる人だった
- ◆ 社員の方々の、仕事に対する熱い思いが伝わってきた

Q そのほか感じた感想は？

- ◆ 形式だけの意見交換ではなく、本気で誌面を分かりやすくしたいという意思を感じた
- ◆ “想いを伝える”ことの大切さを感じた
- ◆ 社員の方々が、本気で“変わろう”“会社を変えよう”としていることが伝わった

参加した学生の声

学生の方々からの意見を受けて

「CSR報告書を分かりやすくしたい」という思いから、報告書の作成過程において、初めてこのような意見交換会を行いました。学生の方々からは、ただ分かりにくい箇所を指摘するだけでなく、「どうしたら分かりやすい表現やデザインになるか」という具体的なアイデアを活発に出していただき、読者の方々に“伝わる”報告書にすることができたのではないかと感じています。

今回いただいたご意見は、今回だけに留まらず、当社の情報全般においても活用し、お客さまに“伝わる”情報発信を心がけていきたいと考えています。



九州大学のみなさんと